

長寿命核種の分離変換技術に関する研究開発の進め方について
(案)

平成12年4月11日

原子力委員会決定

1. 当委員会は、原子力バックエンド対策専門部会(以下、「専門部会」)から、長寿命核種の分離変換技術に関する研究開発の現状と今後の進め方について、調査審議結果の報告を受けました。

専門部会は、各界各層の有識者で構成され、研究状況の評価及びそれ以降の進め方について、約1年にわたり調査審議を行い、報告書の取りまとめに当たっては、報告書案に対し国民の方々から広く意見を募集しました。

2. 本技術は、産業活動に伴う有害廃棄物の発生を極力抑制する観点から、高レベル放射性廃棄物の減容等処分に係る負担軽減や資源としての有効利用に資するものとして有用な技術となる可能性があります。専門部会報告書では、本技術は基礎的な段階にあり、今後も着実に研究開発を進めることが適当であるとして、研究開発の推進に必要な事項が取りまとめられています。

今後は、専門部会報告書にあるとおり、本技術を核燃料サイクルに関する技術ととらえ、核燃料サイクルの他の研究開発との関連を考慮しながら、定期的な評価を行いつつ研究開発を進めることが重要です。また、日本原子力研究所、核燃料サイクル開発機構及び(財)電力中央研究所においては、国内外の研究機関や大学との協力の下、着実かつ効率的に研究開発を進めるべきと考えます。本技術は、核反応を用いて、長寿命の放射性核種を短寿命核種あるいは安定な核種に変換するものであり、その開発に際しては、既存の技術だけでは解決が困難な課題も含まれており、斬新な発想が求められる分野です。今後、若い技術者にとって魅力ある、十分に能力を発揮できるような環境づくりが必要です。このことは、原子力研究の活性化にも寄与するものと考えます。

3. 当委員会は、着実かつ効率的な研究開発が行われるよう、今後も、関係者より適宜状況の報告を受け、評価に当たっても適切な役割を果たしていきます。